

令和 3 年 4 月 14 日

(※受付番号)

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
521031

代表者 校園名： 大阪市立中野小学校
 校園長名： 牧野 美奈子
 電 話： 06-3258-5238
 事務職員名： 間地 豊
 申請者 校園名： 大阪市立中野小学校
 職名・名前： 校長
 電 話： 06-3258-5238

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究（3年目）
2	研究テーマ	「夢に向かって自主的・実践的に取り組む子どもたちを育む学級活動の探究」			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○望ましい集団活動を基盤として、なすことによって学ぶ「学級活動」を推進する。特に、新教育課程を見据えた実践研究を進める。</p> <p>○望ましい人間関係の形成、諸問題を自分達の力で解決していくこうとする主体的・実践的な態度や力の育成を通して、学級経営や集団づくりに寄与する。</p> <p>○全教育活動と学級活動との関連を重視した実践等を目指すと共に、その過程で学級活動の指導方法の可視化に努める。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>(1) 研究の視点</p> <p>① 子ども達が望ましい集団活動を通して、「自分自身をしっかりと見つめ、よりよい生き方を目指すと共に、所属する集団がよりよい方向を目指すように努力する」ことができるようになるための支援・援助のあり方を、学年段階や実態等を踏まえて実践的に研究する。</p> <p>② 学級活動を学級経営の中心に置き、子ども達の「前向きに生きようとする意欲」や「集団で問題解決する力」を高める支援・援助の手立てを工夫する。そのために、全教育活動と学級活動との関連を重視した実践等を目指し、その過程で学級活動の指導方法の可視化を図っていく。</p> <p>③ 学級活動の「評価のあり方」や「活用方法」を検討し、指導に生かせるようにする。</p> <p>(2) 研究の内容</p> <p>① 授業実践を通した研究（全体授業研究会 年間3回）</p> <p>② 子どもたちが「夢に向かって」「自主的・実践的に取り組む」ための支援・援助のあり方を実践的に研究し、その成果を深め広める。</p> <p>③ 全教育活動と関連させる中で、「子どもたちにつけたい力」「達成するための手立て」について学級担任の視点から総合的に研究する。</p> <p>④ 学級活動の各活動での児童の変容について総合的に評価する方法、評価の結果の活用を工夫する。</p> <p>⑤ 大学における研究や、他の研究会等の研究発表の成果から学び、本研究部の研究活動のさらなる充実・発展に資するように努める。</p>			

研究コース

グループ研究B

代表校校園コード

521031

代表校園

大阪市立中野小学校

校園長名

牧野 美奈子

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5 活動計画		<p>◎ 研究の計画</p> <p>5月 役員・幹事会、拡大運営委員会(今年度の組織編成、研究テーマ、役割分担等) 6月 研究計画立案、低・中・高学年部会（各部の計画・役割分担等）</p> <p>7月 拡大運営委員会 (Q&A作成について) 8月 拡大運営委員会、教育課程研修会・学習指導基本研修会（大阪市教育センター） 実施 第63回全国特別活動研究大会参加</p> <p>9月 拡大運営委員会 (授業研究会実施についての調整、Q&A作成について) 10月 特別活動研修会（大阪市教育センター）実施、全体授業研究会① 新任教員特別活動研修会（大阪市教育センター）実施</p> <p>11月 全体授業研究会②、全体授業研究会③、 新任教員特別活動研修会（大阪市教育センター）実施 第36回近畿特別活動研究協議会参加</p> <p>12月 拡大運営委員会 (紀要原稿検討等) 1月 拡大運営委員会 (総合研究発表会打合せ)、研究発表会リハーサル 2月 拡大運営委員会 (最終打合せ) 総合研究発表会実施 3月 拡大運営委員会 (今年度のまとめと次年度のテーマについて)</p>
6 見込まれる成果とその検証方法		<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 低・中・高学年の段階に応じた活動（ふさわしい議題、話合いのポイント）を工夫し、児童の課題解決力の向上を図る。</p> <p>【検証方法】 児童による「活動の振り返り」で集団や自己の決定に関して肯定的に捉える割合（話し合って良かった等の内容）を75%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】 話合い活動の各過程における「適切な支援・援助のあり方」を工夫・改善することにより、子ども達が議題を「自分事」としてとらえることができる。</p> <p>【検証方法】 1単位時間毎の子どもの自己評価、相互評価を実施して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。（例：すすんで意見を発表できたか、友達の意見を聞いて考えることが出来たか、決まったことをすすんで実行しようと思うか、等）</p> <p>【見込まれる成果3】 事前・事後の指導も包括的に継続して指導する等、「学級活動を中心とした総合的な指導のあり方」を工夫することで、よりよい学級経営が促進される。</p> <p>【検証方法】 学級の雰囲気に関する質問紙調査等の肯定的回を70%以上にする。（例：自分の学級でよかったです、仲間と協力して話し合うことは大切だ、係の活動に進んで取り組んだ、話合いを決めたことを最後までやり遂げた、等）</p>

研究コース

グループ研究B

代表校校園コード

521031

代表校園

大阪市立中野小学校

校園長名

牧野 美奈子

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果4】 他の研究団体と情報交流を行い、本研究部の活動に取り入れることで研究活動を深める。</p> <p>《検証方法》 【検証方法】特別活動に関する研究者や諸団体と年6回の交流によって視野を広める。</p> <p>【見込まれる成果5】 学校における全ての教育活動における様々な指導が学級活動の実践には有効である。</p> <p>《検証方法》 学級活動の指導における「可視化」の促進につなげるため、指導案に「全教育活動との関連」として明記する。</p>					
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和4年2月25日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="414 682 1453 750"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 4 年 2 月</td> <td>日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立中野小学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 4 年 2 月	日	場所	大阪市立中野小学校
日程	令和 4 年 2 月	日	場所	大阪市立中野小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>「主体的・対話的で深い学び」を進めるには、学級活動の授業を計画的に実施することが重要である。また、児童の実態に即した題材や思いや願いを大切にした議題を扱うことによって教員の指導力向上が期待できる。</p> <p>今年度もキャリアパスポートの研究を中心に率先して推進し、全市に発信することで、学級活動（3）の取り組みを生かした指導につなげることができる。集団育成、学級経営、教師力等の育成という大阪市の教育課題の解決に大きく寄与する研究内容である。学級活動（1）や（2）についても続けて研究を進めていきたい。昨年度が誌上発表で公開授業を見ていただけなかったので、今年度は可能ならば、別室等を利用してぜひ公開授業をしたい。</p>					